

(報道資料)

パスコが保有する設備と運用体制のレンタルサービスを開始 「衛星地上局ネットワークサービス」

株式会社パスコ（本社：東京都目黒区、代表取締役社長：古川顕一、以下：パスコ）は、沖縄県糸満市と北海道千歳市に保有する地上局（人工衛星との通信施設）の設備やその運用体制を、幅広く衛星事業者やロケット事業者に活用頂ける「地上局ネットワークサービス（レンタルサービス）」の提供を開始します。

本サービスは、今後拡大する宇宙ビジネスにおいて、地上局による追跡サービスや、衛星の運用サービスを提供するものです。

■ 社会的背景とニーズ

日本政府が2017年5月29日に発表した「宇宙産業ビジョン2030」にもある通り、現在、宇宙産業は我が国の第4次産業革命を牽引する成長産業の一つと位置付けられています。人工衛星の製造や打上げに伴うコストの大幅な低減によって、宇宙利用ユーザーの裾野が拡大するとともに、利活用サービスの事業領域においても民間事業者の参入が進んでいます。また、ベンチャーを含む民間企業での人工衛星の打ち上げ、ロケットサービスの展開も既に進んでいます。これらの動向から、衛星データがビッグデータ化し世界中どこでも逐次ダウンロードできる地上局などの環境が更に求められます。

パスコ沖縄局は2007年から、北海道局は2011年から稼働しており、この間国内外の衛星からのデータ受信、衛星運用、ロケット追尾などを行ってきた実績があります。

これまで提供してきた各種サービスに追加し、この新しい時代のニーズに応えるためパスコは「衛星地上局ネットワークサービス」を開始します。

■ サービスの概要

宇宙空間で地球を周回する衛星と地上とを結ぶ設備として地上局は必要不可欠な存在です。しかし、本設備を運用するためには、土地の取得、設備・運用システムの構築など、膨大な投資を伴い、さらに、高い技術力とノウハウが必要となります。

また、衛星と地上局間での通信機会は、地上局の上空を衛星が通過する限られた時間のみに特定されるため、世界に点在する複数の地上局をネットワーク化した通信機会の確保が必要となります。

パスコが保有する2つの地上局は、日本全土を含む極東エリア上空を衛星が通過する際にアクセスできる位置に所在するため、極東エリアにおける衛星との通信機



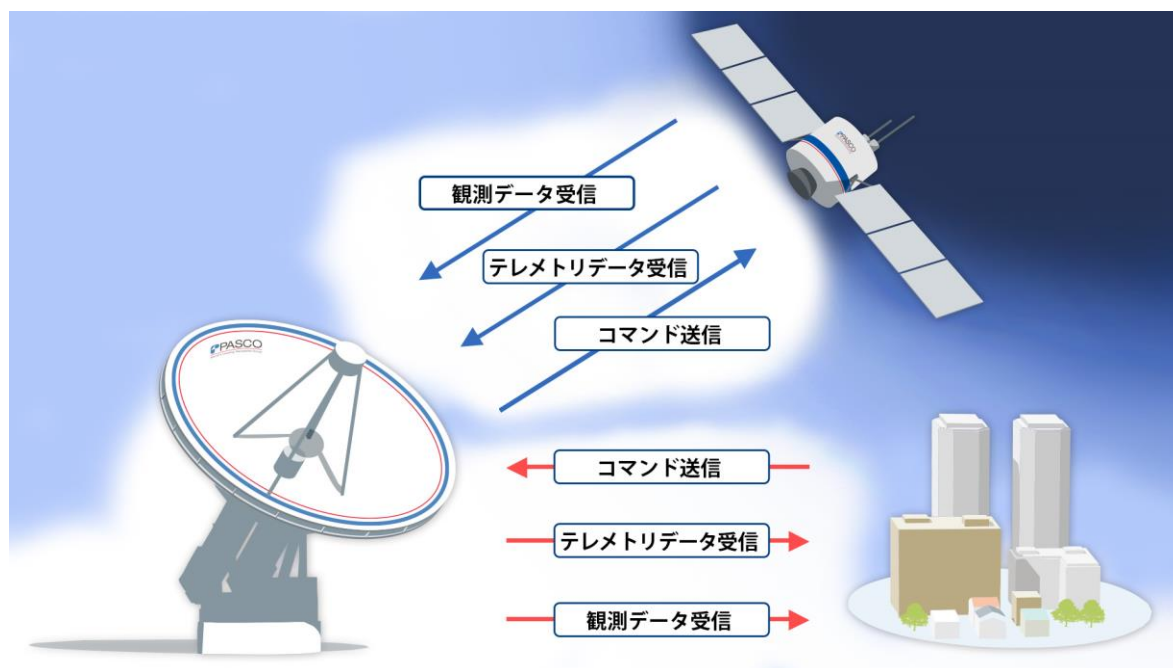
会を提供することができます。

また、日本国内から打ち上げられるロケットは打上安全確保のため、海上へ向け発射されます。このことは多くのロケットがパスコ地上局の可視域内を飛翔することを意味しており、この地理的特徴を活用したロケット追跡サービスも提供します。

<サービスメニュー>

パスコの沖縄局では、レドーム（アンテナを保護するドーム）付きの 7.3m アンテナと 5.5m アンテナを、北海道局では、レドーム付きの 7.3m アンテナを保有しています。

これらの設備を使って、衛星へのコマンド送信、衛星からのテレメトリデータ（機能監視データ）受信と観測データの受信、ロケットテレメトリ受信を代行するサービスを提供します。



① コマンド送信（撮像などの衛星への指示を送信します）

お客様管制センターが生成したコマンド指令を、地上回線を経由して地上局から、変調・電力増幅した電波（Sバンド）を使用して衛星にコマンド信号を送ります。

② テレメトリデータ受信（衛星の機能監視データを受信します）

衛星から送信される電波（Sバンド）を地上局で受信し、復調したテレメトリデータを、地上回線を経由してお客様管制センターに伝送します。

③ 観測データ受信（衛星で地上を撮影したリモートセンシングデータを受信します）

衛星から送信される地球観測データ（Xバンド）を受信し、復調し地上回線を経由してお客様データセンターに伝送します。

④ ロケットテレメトリ受信（ロケットのテレメトリを受信します）

ロケットから送信されるテレメトリデータ（Sバンド）を受信し、復調し地上回線を経由してお客様管制センターに伝送します。

■ パスコ地上局の実績・経験

当社の運営する地上局は、Airbus Defence and Space 社（フランス、Airbus グループ）が保有する以下衛星でのデータ受信や、その他の衛星の運用等に対して、そのサービスを提供してきました。

TerraSAR-X シリーズ（TerraSAR-X & TanDEM-X）

Pleiades シリーズ（Pleiades 1A & Pleiades 1B）

SPOT シリーズ（SPOT 6 & SPOT 7）

現在稼働している ASNARO-1 衛星については、衛星管制センターをパスコ内に持ち、パスコ地上局を利用した衛星管制、データ受信の実証運用を3年以上にわたり実施してきました。

さらに、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の支援として、2017年12月23日に打ち上げられた H2-A 37号機ロケットと2018年1月18日に打ち上げられたイプシロンロケット3号機の追尾をパスコの衛星地上局で行い、ロケットからのテレメトリデータを受信、種子島宇宙センターへ伝送しました。

■ パスコにおける衛星事業

パスコは、2005年に衛星による地理空間情報の提供事業に着手し、2007年12月の TerraSAR-X の運用開始に伴い事業を本格化しています。2018年1月末現在、世界中で運用される24機の衛星の使用権を保有し、衛星データの全世界への販売のほか、衛星データを活用したソリューションサービス（地すべり監視、地盤変動監視、都市変化解析、農地管理など）を提供しています。

本サービスについて：<https://www.pasco.co.jp/products/ground-sta/>

■ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社パスコ

<https://www.pasco.co.jp/>

（報道機関）

広報部

TEL：03-3715-1048

（お客様）

カスタマーセンター

TEL：0120-494-800

お問い合わせフォーム

<https://www.pasco.co.jp/contact/>

プレスリリースの内容は発表時のものです